



様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
	20人	20人	20人	0人	20人	20人	100.0%	4,777	順調	書道分野で活躍する高校生20名をコロナ禍で実際に台湾に派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講師を招聘しての実技指導を行った。	
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	派遣人数について、計画値20人に対して実績値20となった。オンライン交流等を通して、台湾との交流や書道分野での技能向上につながった。 台湾との交流では、英語によるコミュニケーション能力の必要性を体感できた。
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和3年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。</li> <li>・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。</li> <li>・コロナ禍で行動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努めた。</li> </ul>					



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

##### ○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 燃料費高騰による航空運賃の値上げが想定される。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ 後継事業において、本研修を効果的に実施できるように事前研修において、語学力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。



様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	54人	50人	44人	0人	44人	54人	81.0%	11,389	概ね順調	美術・工芸、音楽、郷土芸能分野で活躍する高校生44人をコロナ禍で実際に海外へ派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講義、講師を招聘しての実技指導を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										派遣人数は令和元年度から美術・工芸部門をそれまでの台湾20人からドイツに派遣するにあたり14人に変更したため減少となっている。
活動指標名					R3年度					オンライン交流においては、発言を求められる機会が増えたこともあり、活発に発言するなどコミュニケーション能力の高まりが生徒にみられた。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。</li> <li>・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努める。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。</li> <li>・コロナ禍で活動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努めた。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には就業体験等における英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

##### ○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 現地での就業体験受入事業者の選定が必要となる。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ 本研修を効果的に実施できるように事前研修において、職業理解、実用的な英語コミュニケーション能力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。



様式1(主な取組)

活動指標名	県内指定文化財紹介書籍の刊行				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	100.0%	92,289	順調	<p>『天然記念物編』の刊行に際して、本事業では新たに指定になった文化財を加えて、県民が文化財に親しみを持つような、デザイン性を重視した編集を行う。さらに、本事業で収集した文化財情報および写真を基礎データとして今後の沖縄の歴史、文化財の普及、啓発活動に活用していく。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>本事業において、刊行業務がメインとなるため、『天然記念物編』の発刊を計画どおりできたことが判断根拠となる。 事務局、各分野と工程会議を行い、作業状況の確認とともに工程の管理を行った。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育が終了した中学生3年生が理解できる内容にまとめ、文化財普及書の分かりづらさを改善する。</li> <li>文化財を理解するための平面図や図解を作成し、掲載する。</li> <li>写真撮影は、事前調査や撮影工程、文化財の取り扱い等を綿密な計画を立てて効率化を図る。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする検討を行った。</li> <li>中学3年生が基礎的な学力でも理解できる内容や構成を検討した。</li> <li>読者の興味関心を高めるために、文化財ごとに写真を豊富に加えるとともに多彩なコラムを掲載したほか、本文内にキャラクターを作成し、学習の補助となるコメントを加えた。</li> </ul>				





## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・ 推定された文化財の中には、数百点の資料を有する文化財もあり、各文化財ごとに状況が異なるため、写真撮影や説明文の内容など、工夫の必要がある。

##### ○外部環境の変化

- ・ 文化財の保護は市町村単位で行っている。
- ・ 天然記念物は動植物を対象としており、必ず職員が撮影できるとは限らない。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 刊行した「みんなの文化財図鑑」が活用されるよう広報や周知方法を検討する。

### 4 取組の改善案 (Action)

・ 「みんなの文化財図鑑」の活用が図られるよう、PDFデータを文化財課のホームページに掲載する。